

腹膜透析患者の QOL について

— SF-36を用いて —

QOL of Patient on Peritoneal Dialysis therapy

— analysis by SF-36 —

人工腎臓部：宮川 哲江・重野みどり

〈要 旨〉

近年医療現場において延命だけではなく、生存中の QOL を高めることが重視されてきている。そこで、その QOL の尺度として高い評価を得ている SF-36 を用いて当院の腹膜透析患者の QOL の実態を評価した。健康な一般人と比較し評価点数は低く、患者自身が健康度の低下や日常生活の制限を実際に認識していることが示唆された。しかしその反面、精神的には安定しており、充実した社会生活を送っていることも示された。

〈キーワード〉

QOL, 腹膜透析, SF-36

1. はじめに

現在日本での腹膜透析患者（以下 PD：Peritoneal Dialysis と略す）は約 9 千名で、当院でも在宅 PD 患者が 9 名いる。しかし、当院の患者の QOL の実態はまだ明確ではない。近年 QOL については様々な研究がなされている。QOL を数量的に評価することは難しいとされていたが、米国で開発された SF-36 を用いることにより数量的な評価が可能となった。現在では SF-36 は世界的にも認められている QOL 尺度である。そこで、その SF-36 を用いて当院における PD 患者の QOL の実態を評価した。

2. 対象及び方法

i. 研究対象

平成10年9月1日現在、当院人工腎臓部に外来通院している PD 患者 9 名

- (1) 性別 男性 4名, 女性 5名
- (2) 平均年齢 58.9才 (35~79才)
- (3) 平均 PD 歴 31カ月 (5~61カ月)
- (4) 治療パターン 連続携行式腹膜透析 (以下 CAPD と略す) 7名, CAPD と血液透析併用 1名, 自動腹膜透析 1名
- (5) 治療法選択 積極的適応 8名, 消極的適応 1名

ii. 研究方法

SF-36質問表の日本語版(資料1)を用いて外来受診時、患者の同意のもと面接法によりアンケート調査を行なった。得られた結果より SF-36のサブスケールそれぞれの尺度得点を100点

を満点として算出し、その結果を米国のマルシュカらの研究結果と比較し評価した。

3. 結果

- ① 図1において、自験例と米国 PD 患者との比較では、8つの尺度においてほぼ同様の傾向を認めた。その中で痛み（以下 BP：bodily pain と略す）の尺度のみ、得点に低値を認めた。
- ② 図2は自験例と米国一般人との比較を差得点で表したものである。米国の健康な一般人と比べて全ての尺度において低下していた。その中でも特に、身体機能不全による役割制限（以下 RP：role functioning physical と略す）と全体的な健康観（以下 GH：general health perceptions と略す）でスコアに差を認めた。その他の尺度では大きな差を認めなかった。

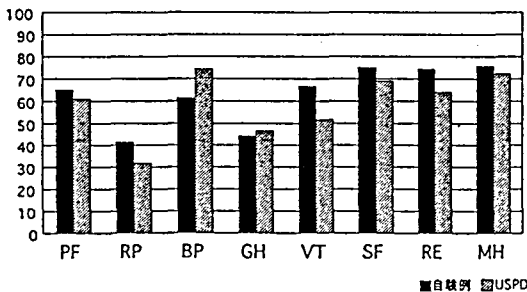


図1 自験例と US PD (Maruschka ら) との比較

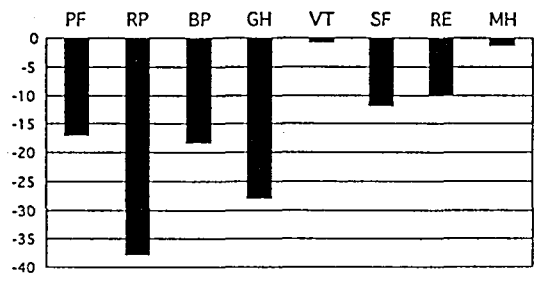


図2 自験例と US 国民標準値 (Maruschka ら) との比較

4. 考察

PDは患者のQOLを高く維持することが期待される透析療法であるとされているが、これはおもに通院回数が少ないこと、液交換場所が限定されず自由度が大きいことなどによる。今回の研究結果より、米国PD患者との比較において、ほぼ同様の傾向を示したがBPのスコアのみ大きな差を認め低値を示し患者9名中7名が加齢による腰痛、二次性副甲状腺機能亢進症による膝痛、骨折などの何らかの痛みを訴えていることが示された。このことから、痛みによってQOLがかなり阻害されていると思われた。

米国一般人との比較においては、RPのスコアの低下を示し、PD患者の場合腹圧をかける動作を避けることや貧血が原因となり活動が制限されているためと考えられた。一般人と比べPD患者は、その疾患のために健康度の低下を認識しており、この先どうなるのか、家族や周りのことが心配だという患者の訴えもあった。その訴えから何らかの不安を持っていることが理解された。しかし、RP、GH以外の6つの尺度においては大きな差は認められず、不安はあるものの精神的に充実し人との付き合いにおいても問題はなかったと思われた。これはPD療法が、食事制限が緩やかであることや、患者が自分の生活リズムにあわせて行なえる療法であるためと考えられた。その反面、PD患者の場合1日に数回の液交換が必要であるため、液交換のことを考えると普段の付き合いを制限してしまうという患者や、自分の病気のことやPDについて聞かれるのが嫌で人との付き合い

を減らしているという患者もいた。今後、PD療法の治療パターンを変更することでこの訴えは解決される可能性もあると考えられる。

5. まとめ

当院人工腎臓部に外来通院しているPD患者9名を対象にSF-36を用いてアンケートを行った。その結果、当院PD患者では一般人と比較し身体的活動能力に制限はあるものの、精神面では充実した社会生活を送っていると思われた。

最後に、この研究を行うにあたり資料を提供してくださいました東京大学の福原俊一先生に深謝いたします。

参考文献

- 1) 福原俊一：健康関連QOL測定の臨床的意義 —今なぜQOLか？ 何のためにQOLを測定するか？, 臨床透析 13(8);1071-1082, 1997
- 2) 高井一郎 他：透析患者のQOL —SF-36を用いた試み, 臨床透析 13(8);1107-1113, 1997
- 3) 辻 洋子, 福原俊一：透析患者の診療に必要な検査(手技・解析)透析患者の健康関連QOL測定, 腎と透析 43巻増刊;979-982, 1997
- 4) 福原俊一, 高井一郎, 三浦靖彦：血液浄化(透析)療法健康関連QOL測定による腎性貧血の治療評価, 医学のあゆみ 183(5);349-354, 1997
- 5) Maruschka, P. et al. :Quality of life in patient on chronic dialysis Self assessment 3 months after the start of treatment, Am. j. kidney D is 29(4);584-592, 1997

参考資料

資料1 SF-36におけるサブスケールと含まれる質問項目

| サブスケール | 質問項目 |
|-------------------------------------|--|
| 身体機能 (physical functioning : PF) | 激しい活動をする 適度の活動をする 少し重い物を持ち上げる 階段を数階上までのぼる 階段を一階上までのぼる 体を前に曲げる, ひざまずく, かがむ 1キロメートル以上歩く 数百メートルくらい歩く 百メートルくらい歩く 自分で入浴・着替えをする |
| 役割機能(身体) (role-physical : RP) | 仕事・普段の活動時間をへらした 仕事・普段の活動ができなかった 仕事・普段の活動の内容によっては, できないものがあった 仕事や普段の活動をすることが難しかった |
| 体の痛み (bodily pain : BP) | 体の痛みの程度 痛みによっていつもの仕事がさまたげられた |
| 全体的健康観 (general health : GH) | 現在の健康状態の評価 病気になりやすい 人並みに健康である 私の健康は悪くなるような気がする 私の健康状態は非常に良い |
| 活力 (vitality : VT) | 元気いっぱいだった 活力にあふれていた 疲れ果てていた 疲れを感じた |
| 社会機能 (social functioning : SF) | 家族・友人などとのつきあいが身体的あるいは心理的な理由でさまたげられた 人とのつきあいをする時間が身体的あるいは心理的な理由でさまたげられた |
| 役割機能(精神) (role-emotional : RE) | 仕事・普段の活動時間をへらした 仕事・普段の活動が思ったほどできなかった 仕事・普段の活動が集中してできなかった |
| 精神状態 (mental health : MH) | かなり神経質であった どうにもならないくらい, 気分がおちこんでいた 落ちついていて穏やかな気分だった おちこんで, ゆうつな気分だった 楽しい気分だった |

資料2 SF-36サブスケールのスコアの解釈

| サブスケール | スコアの解釈 | |
|---|--|---|
| | low | high |
| 身体機能 (physical functioning) | 健康上の理由で、入浴または着替えなどの活動を自力で行うことが、とても難しい | 激しい活動を含むあらゆるタイプの活動を行うことが可能である |
| 身体機能の障害による役割制限 (role functioning physical) | 過去1カ月間に仕事やふだんの活動をしたときに身体的な理由で問題があった | 過去1カ月間に仕事やふだんの活動をしたときに身体的な理由で問題がなかった |
| 痛み (bodily pain) | 過去1カ月間に非常に激しい体の痛みのためにいつもの仕事が非常に妨げられた | 過去1カ月間に体の痛みはまったくなく、体の痛みのためにいつもの仕事が妨げられることはまったくなかった。 |
| 社会機能の制限 (social functioning) | 過去1カ月間に家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で非常に妨げられた | 過去1カ月間に家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で非常に妨げられることはまったくなかった |
| 全体的健康観 (general health perceptions) | 健康状態が良くなく、徐々に悪くなっていく | 健康状態は非常によい |
| 活力 (vitality) | 過去1カ月間、いつでも疲れを感じ、疲れ果てていた | 過去1カ月間、いつでも活力にあふれていた |
| 精神機能の障害による役割制限 (role functional emotional) | 過去1カ月間、仕事やふだんの活動をしたときに心理的な理由で問題があった | 過去1カ月間、仕事やふだんの活動をしたときに心理的な理由で問題がなかった |
| 精神状態 (mental health) | 過去1カ月間、いつも神経質で憂うつな気分である | 過去1カ月間、落ち着いていて、楽しく、おだやかな気分であった |